

●セット付属部品 ※① ②は、紫外線により色あせしますが、機能には影響いたしません。



●オプション



Plant Factory Ver2

取扱説明書

責任の範囲

- 植物栽培における生育については、お客様の責任のもと実施してください。
- 製品の使用に際して、水漏れ・その他の異常に対する損害が発生しても、当社といたしましては一切の責任は負いません。

ご使用上のご注意

※製品を安全に正しくお使いいただくために重要な内容を記載しています。
本文をお読みいただき記載事項を必ずお守りください。

- ⊘ 引火性のものおよび高温になるものの近くでの使用はしないでください。
火災の原因になります。
- ⊘ 本体に水が入ると重量が増すため設置場所を移動させる場合は、水を抜いてから行ってください。
腰痛・けが等の原因になります。
- ⊘ 発泡スチロール製品のため、製品に乗ったり、一部を持って引っ張る等しないでください。
破損・けがの原因になります。
- ⊘ 紫外線により製品の色あせが発生しますが、使用に際しては特に問題ありません。
紫外線劣化によるものです。

※商品改良により、仕様や外観、付属品外観も含め変更になる場合があります。
本書のイラストや写真と形状が若干異なる場合がありますのでご了承ください。

製造元

東北資材工業株式会社 **あじりつとファーム**
〒028-3101
岩手県花巻市石鳥谷町好地 12-28-1
TEL : 0198-46-2811 FAX : 0198-46-2812
URL <http://tohoku-shizai.ftw.jp>

プラントファクトリー Ver2 をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みいただき正しくご使用ください。

●製品の特長

本製品は、下にある溶液槽から液肥を上へ吸い上げ、必要な水分と肥料を供給する事で植物の生育を行うものです。また、成長とともに根が水を求めて育成パネルの穴から下の溶液槽に伸びて行き、根が大きく育つ事で成長が促進されます。連結する事ができるので多くの野菜や草花を育てるのに適しています。

使用手順

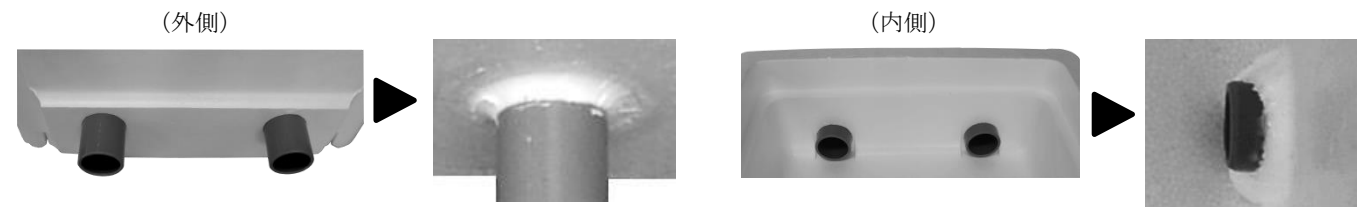
1. 図1のように部品を組み立てていきます。(P3、セット付属部品を参照)

【図1】



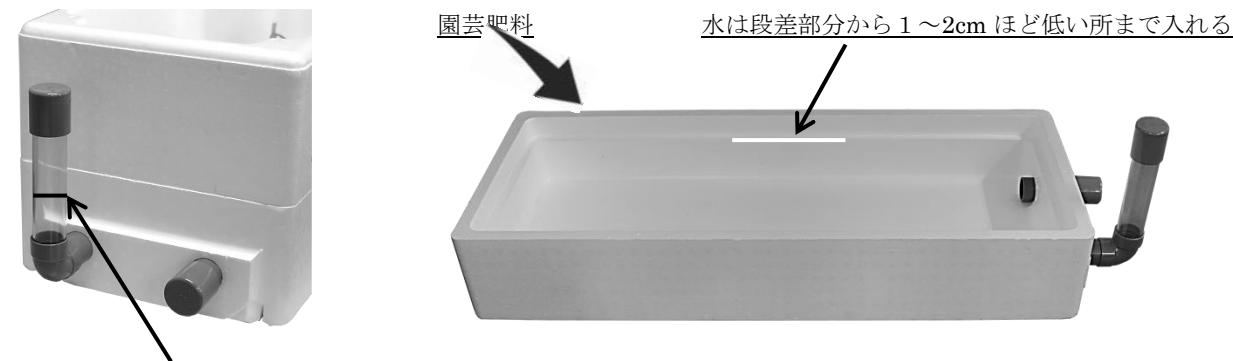
2. 塩ビパイプを下図の部分に通しパイプの周りをコーキング剤で隙間ができないようにふさぎます。
または、連結して使用する場合は、連結部分に連結用塩ビパイプ 200mm を通しコーキング剤で隙間処理を行います。

水漏れ防止のため外側と内側をコーキング剤で隙間処理を行う



・図1: コーキング剤が乾いたら、片側にキャップを取り付け、反対側に塩ビ 40×40 エルボーを取り付けます。
反対側に透明塩ビパイプとキャップを取り付けます。

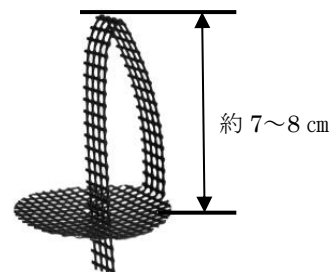
3. 溶液槽の段差部分まで水を入れ(約 20 リトル)、園芸肥料を栽培する物に合わせて、記載されている割合を投入し手でかき混ぜて下さい。使用中に溶液を足す場合は、ペットボトルに水を入れ、必要量の液肥を投入しペットボトルの栓を閉めて振る事で混ぜる事が簡単にできます。



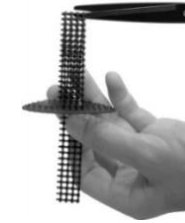
水と肥料を入れたら水位の上限が分かるようにマジックで線を引き印をつけます

4. 鉢底ネットを右図のようにカットされている部分に通して下さい。

【目安】



5. 高さを合わせたら先端を折り曲げて、ハサミで半分をカットして下さい。(注意: 全部切らない事)



6. 水やりテープ1本・65cm を半分にカットし約 32.5cm になるように必要数分をカットします。【目安】

7. 半分にカットした水やりテープを、鉢底ネットに右図のように通し、ハサミでカットした部分にはさみます。
(水やりテープは伸ばして乾かした状態の方がセットしやすくなります)



8. これを、18 個つくり、育成パネルにセットします。

注意) 育てる植物と使用する培土により水やりテープの数を減らして下さい。

参考として花や野菜栽培する際に、培土にパーミキュライトを使用した場合は、水やりテープの数は半分の 9 か所で問題ありません。残り 9 か所は土が下に落ちてしまわないように鉢底ネットを敷くようにして下さい。



9. 水やりテープが出ない程度に園芸培土を育成パネルに入れます。(約 50L 使用します)



10. 種を土にまきまいたら、土に水をかけてください。

※土全体を一度濡らす事で、下から水を吸い上げるための呼び水になります。

※種まきについては、種袋の裏側をご確認ください。

11. 植物の生育状況により水、又は液肥を記載されている割合にうすめてもらい、給水・給肥をしてください。

(ペットボトルを使うとうすめる割合が分かりやすいです)

【注意】液肥に光があたると、青子発生の原因になります。

【備考】続けて使う場合の付属部品の代用方法

1. 鉢底ネットは、ホームセンターの販売している「トリカルネット H01」をハサミでカットし代用できます。

(この形にこだわらず、工夫してみてください)

2. 水やりテープは、ホームセンターのカー用品コーナーの「セーヌ 吸水クロス」をハサミでカットし代用できます。